

屋根雪問題は敷地境界の ぼかしで解決

元防災科学技術研究所
阿部 修

雪国の暮らし：居間からの風景

2021年12月25日
積雪深：30cm



2022年1月15日
積雪深：119cm



2022年2月6日
積雪深：176cm



この日、新庄では最大積雪
深となった。

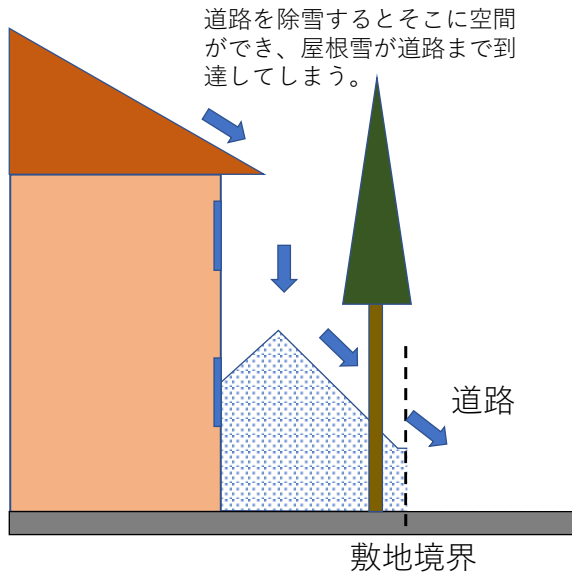
雪国の暮らし：雪囲い



地熱融雪を利用した雪処理



我が家の失敗例



巨大な座布団雪



限界集落を襲う豪雪

人の手が入らなくなると雪の荷重で軒先が破壊される。



屋根雪問題は周りとの関係



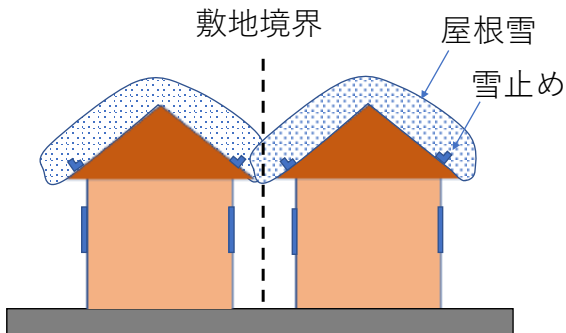
航空写真で見る市街地

1982年1月18日新庄市

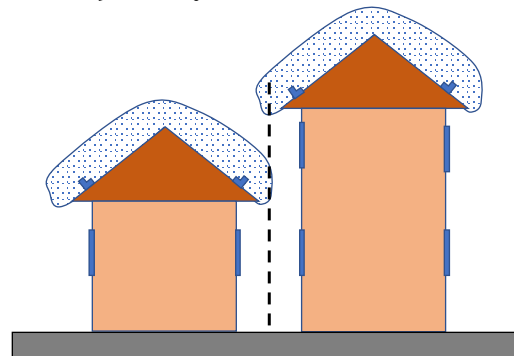


旧商店街の対処方法

狭い場所では、隣接する建物の軒の高さをそろえてトラブルを避けている。



隣接する建物の軒の高さが異なるとトラブルが発生することが多くなる。



2次元から3次元への拡張

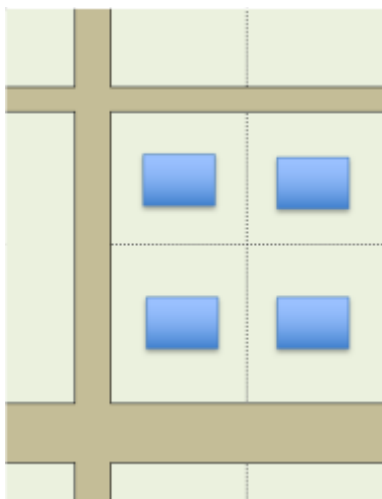
ある新興住宅地



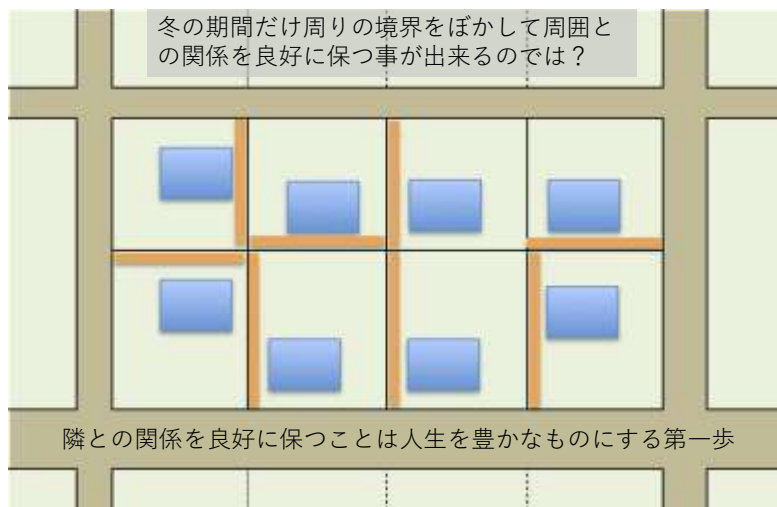
それぞれが周りの環境を意識せず、自分の思い描いた家を建てている

各細胞は、非常に単純な、排他的行動ルールにしたがって、隣接した細胞と交信し、その結果、排他的に自らを変化させる。・・・しかし指揮者、・・・はこのプロセスの最初から最後までどこにも存在していない。（福岡伸一、世界は分けてもわからない、2009）

細胞分裂式都市計画



四角四面な都市整備



人間の志向を考慮した都市整備

まとめ：いま何をしなければならないか？

10年ほど前に提起した課題

行政

雪下ろし事故の注意喚起

雪に強い住宅への誘導

ボランティア受け入れ体制の強化

コンパクトシティの構築

■：ある程度実現した項目

しかし、他はまだ実現していない

ハードだけでは対応不可
柔軟な対応が必要！

企業

雪に強い住宅の普及

自然エネルギーを用いた

低コストの融雪装置の開発

住民

基本的な安全確認

協力体制の強化

耐雪住宅への移行